|  |  |
| --- | --- |
|  | 小千谷旅する案内帳「千の谷の物語と雅色の郷　小千谷」里　 |

**小千谷陣屋跡**

ガイド案内

* かなり大規模な陣屋で魚沼の幕府領を会津藩が預かっていました。
* 本陣には、白州、訴所、役所があり、囲むように長屋があった。
* 陣屋の仕事は年貢の徴収とその米を送る検査、新田開発、堤（つつみ）修理、農事奨励、戸籍の作成、庄屋事務の監督、訴訟裁判など万般にわたる任務と権力があった。幕末で41人の役人がいた。
* 陣屋に用が有る人が泊る郷宿が幕末時20軒あった（主人が陣屋の役人と住民との取次ぎを円滑にする役目を持つ）
* 幕末、１月、鳥羽伏見の戦いが勃発。幕府が負けて、町の有力者の酒肴を用意して陣屋に呼んで、戦費の調達を申し付ける。3450両のうち西脇家が1200両献納した。
* 会津、長岡藩を討つ為に新政府軍が北上する。これを防御する爲に、大砲と共に会津藩兵が500名以上着陣し、町中に宿陣する。船岡山や川原で軍事訓練をする。見物人多数。
* 桑名藩主一行80余人は柏崎から山谷峠を越えてきて陣屋と他の3、4軒の宿に泊る、家老を暗殺して徹底抗戦の意志を固めて、直轄地の加茂に行く途中であった。
* 会津藩・朱雀隊の屈強の兵士はみな小出の防備に出かけた。
* 閏4月２６日、雪峠戦で敗退し、陣屋から会津藩士全員が大船７艘に乗って片貝方面に敗走した。藩士のうち只一人、押田悌三（ていぞう）は分厚い書類を胴に巻き、吉谷の知人に匿ってもらう。その晩、勤皇派・庄屋・佐藤半左エ門の呼びかけで新政府軍に味方するよう町中の考えをまとめた。陣屋は空になった。

エピソード

* 通りの戸、障子をすべてはずし、家の中が見とおせるようにして、町の有力者達は紋付を着用し、村はずれの中村まで出迎えた。
* 中の一人が、礼を尽くすつもりで笠をかぶっていたら、刀で跳ね上げられて肝をつぶした。
* 陣屋には東山道先鋒隊軍監・岩村精一郎と首脳陣が宿陣した。
* ５月２日、長岡藩家老・河井継之助が嘆願に来た。陣屋で会談の予定が、片貝村の『佐藤某』が飛び込んできて、片貝に敵が攻めてきたことを注進した。にわかに騒然となって、会談の場所は慈眼寺に変更された。
* 慈眼寺で談判は決裂。岩村がやすんでいると、河井が嘆願書の取次ぎを請うて門前に何度も来ていることを告げられるが応じなかった。
* 朝食時、女性の給仕で首脳達と食事をしていると、後の総理大臣・山形有朋が陣屋に馬でかけつけ泥だらけの草履のまま座敷にあがり、岩村の前に仁王立ちとなって、河井を逃がしてしまった失態に激怒。「指揮はわしがとる」ときびすを返した。
* 朝日山の奇襲攻撃を計画し、向こう岸に舟を渡すよう、抜刀して舟子を脅した。１００年ぶりの大雨で氾濫する川に舟は出せないと、渋る舟子を、半左エ門は『切られ死ぬも同じ事、同じ死ぬならお国のためにと、説得した。舟子は大いに発奮し、１艘100両くれる約束が実際には一人３両だった。戦後、舟子は看板にかいて繁盛したという。
* １艘の舟に８人の舟子で、６，７人の兵を渡した。
* 奇襲攻撃に失敗し、大勢の死傷者を出しえ、大騒ぎとなる
* 連戦連勝の新政府軍だったが、小千谷では勝てず、作戦を変更し長岡城を関原方面から直接攻める事にした。
* ５月１9日長岡城は落城し、朝日山からは東軍は撤退した。
* 戦後、継之助の妻おすと母お貞は唐丸駕籠に入れられ、小千谷陣屋に連行された。厳しい取調べに、『河井継之助の妻です』ときぜんと答えたという。

メモ